

海外渡航者危機管理 ガイドブック



福井工業大学
Fukui University of Technology

インターナショナルセンター

1. はじめに

このガイドブックは、留学・研修・出張のために渡航を予定している本学の学生・院生および教職員が海外で予想される様々な危機に対し、各自が危機管理意識を持って、情報の収集を行い、万一危機に遭遇した場合でも落ち着いて行動できるように作成しました。

海外渡航に際し、本ガイドラインをよく読み、より安全で安心な海外生活を送ることができるよう心掛けてください。

海外渡航の鉄則

- 自分の身は自分で守る
- 危険な場所には近づかない
- 単独行動は極力避ける
- 夜間・早朝の外出は避ける
- 万が一の危機発生時は、生命の安全を第一に考える

2. 海外渡航前に行くこと

(1) 情報収集

昨今の海外情勢は、いかなる場所においても、テロ、暴動、デモが発生する恐れがあります。海外渡航前には、外務省海外安全ホームページなどにより渡航先の治安情報など関係情報を収集し、出発前に海外渡航に関する危機管理について認識を深めましょう。

また、自身の情報収集として、入国のためのビザの取得方法やパスポートの有効期限を確認しましょう。

出入国時、渡航先によっては禁制品や通貨持ち込みに制限が課せられる場合がありますので、渡航先の情報収集をよく行いましょう。

海外安全リンク集

○外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

○外務省 海外で困ったら 大使館・総領事館のできることに

http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_02.html

○厚生労働省 検疫所（海外で流行中の感染症情報など）

<http://www.forth.go.jp/>

○外務省 世界の医療事情

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>

○厚生労働省 薬物乱用防止に関する情報

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/>

（２）渡航申請

海外渡航事業（語学研修、海外インターンシップ、出張等）により一定期間、海外へ渡航する学生及び教職員はそれを申請する書類の提出が必要となります。これは、海外渡航中に何らかの危機が起こった場合に、関係者と迅速に連絡をとるためです。渡航者は常に自分の所在を明らかにし、何かあったときには、いつでも連絡がつく状態を作っておくことが大切です。また、学生や教職員が海外渡航する際には、資機材（貨物）の持ち出し、技術の提供（学会発表など）にあたり、渡航先および持ち出す資機材や提供する技術によって、事前に日本政府の許可を取らなければならない場合があります。これは、日本の先進技術が大量破壊兵器の開発を行っている国で軍事転用されることを防止するためです。無届けのままに資機材（貨物）の持ち出しや技術提供を行った場合、外為法違反となり罰せられることがありますので、該当すると思われる場合には、事前に国際ナショナルセンターにお問い合わせ下さい。

（３）健康診断・予防接種

海外渡航先で体調を崩すと研修や業務に支障をきたすことが考えられます。渡航前には、自分の健康状態を把握するために、出発前に健康診断を受けましょう。また、渡航先によっては、予防接種が必要な場合があります。事前に渡航する国の情報を確保し、必要な場合は予防接種を受けてください。

普段から持病があり、治療や経過観察をしている場合は、その病気の経過や治療法、使用中の薬剤等に関して、主治医に英文の診断書や処方薬説明書、報告書を書いてもらい、準備するとよいでしょう。海外へ大量の医薬品を持ち出すときは、検疫等で問題がおこらないように必ず医師の証明書を持参してください。

国によっては、誤診の際の損害賠償義務が重いなどの理由で、医療情報が不明確な患者に対して医師が十分な医療を行わない場合があります。そのようなとき、英文診断書があれば、海外の医師でも患者の疾病履歴や処置方法、処方薬がわかるので、スムーズに医療を受けることができ安心です。

また、海外での歯科治療費は一般的に海外旅行保険の対象外であり、高額になりますので、渡航前に歯科検診を受け、必要な治療を終わらせておいた方が良いでしょう。

（４）海外旅行保険への加入

研修・出張中に事故や事件に巻き込まれないとは限りません。万が一に備え、海外旅行保険には必ず加入しましょう。なお、クレジットカードには、海外旅行保険特約の付いたものがありますが、補

償の限度額が低いことや適用範囲が狭いことが多いので、この保険のみに頼らず、可能な限り内容の充実した保険に加入することをお勧めします。

（５）金銭管理の準備

クレジットカードはショッピングでの支払いや、ホテル、飛行機の予約などで身分証明書にもなり、便利です。ただし、JCBカードなどの日本のものは、使用できない場合が多いので、VISA カードやマスターカードを持っていると便利でしょう。

クレジットカードの利用限度額は盗難時等の被害を最小限にするため、高額に設定しすぎないように、注意が必要です。また、海外ではスキミング等の犯罪が増えているので、信頼できる場所でのみ使用しましょう。

現金を持ち歩く際は、盗難の恐れがあるため、極力、少額を持ち歩くことを心掛けましょう。

（６）通信手段の確認

海外への渡航に当たっては、事前に現地での通信手段を確認しておきましょう。国際ローミング対応の携帯電話であれば海外でも使用可能ですが、滞在先での国内通話であっても、国際ローミング扱い（すべての通話が日本経由の国際電話となる）となり、国際転送料や着信料が発生します。比較的長期の滞在になる場合は、現地でプリペイド携帯や一般の携帯電話を契約することもできるので、渡航前に現地で契約可能かどうか確認しましょう。

また、渡航前にWiFiルータやスマートフォンのSIMカードを契約することで、現地でインターネット接続することができます。インターネットに接続できる環境にあれば、SNSを使用することで、ユーザー同士無料でやりとりを行うこともできます。

（７）その他

航空券やパスポートは大切に保管し、渡航当日忘れないよう、注意しましょう。また、渡航日程や、フライト便名、トランジットが必要な場合の空港などをよく確認しておきましょう。

3. 海外滞在時の注意すべきこと

滞在先においては、さまざまな危機が存在することを常に念頭においた上で、個人としてできる予防策を講じておきましょう。万が一、危機状況に直面した場合でも適切に対処し、被害や損害を最低限に抑えるための準備をしておくことが重要です。

（１）犯罪被害のリスクとその予防

海外の滞在先は、不慣れな場所であるだけに、どのようなリスクがあるのか十分に把握できないため、窃盗などの被害に遭う可能性が高くなります。

これらを未然に防ぐために、一人一人が海外用の「知識」と「意識」をもち、事前に安全対策を講じることが何よりも大切です。

- 不必要に多額の現金、貴重品は持ち歩かないこと。
- 閑静な場所に一人では決して行かないこと。朝早く、夜遅くは出歩かないこと。
- むやみに他人を信用しないこと。自分の個人情報や安易に与えないこと。
- 警戒心を忘れず、外国にいることを常に意識すること。生活に慣れてきたときほど注意。
- 目立つ服装や行動は避けること。高価な装飾品は身に付けないこと。
- パスポート等、貴重品の管理を徹底し、手荷物やスーツケースは極力肌身離さないこと。
- 他人からの荷物を預からないこと。預けないこと。

（２）危険発生時の対応

北米諸国では一般市民が銃を所持している比率が非常に高く、特にアメリカでは銃関連の犯罪が多発しています。また、先進国でも空港、鉄道、駅、地下鉄、バスターミナルなどは、テロや暴動等が発生しやすい場所ですので、十分に注意をしてください。また、世界各国で異常気象などの災害も多く発生しています。危険発生時の対応として、安全な避難場所や避難経路などについての情報を収集するなどの事前のチェックが有効です。

もし、このような事態が発生した際は、現場には近づかず、身の安全を確保してください。また、銃声音や爆発音を聞いた場合は、身を低くし、付近の遮蔽物に隠れ、迅速にその場を離れてください。強盗・詐欺にあった場合は抵抗せず、要求に応じてください。その際、不用意にポケットに手を入れると武器を取り出す行為とみなされる場合がありますので、注意してください。海外での緊急事態に遭遇しないように、外務省海外安全ホームページ（<http://www.anzen.mofa.go.jp/>）のたびレジ等を活用してください。

自然災害が発生した場合には、自分一人で行動するということは極力避け、周りの人と集団で行動することを心掛けてください。そのために交友関係や近隣住人とは、普段から挨拶を交わすなどの良好な関係を築いておくことをお勧めします。また、二次災害の危険性についても配慮して、行動してください。

（３）交通ルールについて

交通ルールは世界共通ではありません。海外においては、日本の交通ルールの感覚のままでは大変危険です。渡航先では、現地の交通ルールをよく確認し、順守してください。特に、世界では「自動車優先」が一般的です。横断歩道で信号が変わった直後でも歩道に飛び出さず、車がやって来ないかを確認した上で、歩き出すことが重要です。

また、交通事故の現場で、自分に落ち度はないのに無意識に謝ってしまうと、自分の非を認めたことになりかねません。これが、事故処理後の裁判で不利に働くこともありますので、注意してください。

渡航先では、車の運転は絶対にしないでください。ホテルのフロントに手配してもらうか、タクシー乗り場に停まっているタクシーに乗るようにしてください。流しのタクシーなど、いわゆる白タクに乗ってしまうと遠回りされたり、高額な料金を請求されたりするなどトラブルに巻き込まれる可能性があります。また、スマートフォンを所持している場合には、現地で利用可能な配車アプリを事前にダウンロードしておき、配車サービスを利用するのもよいでしょう。

（４）健康管理

海外では、気候が違ふ、時差がある、言葉が通じない、習慣が違ふなど、肉体的・精神的ストレスのため、体調を崩す人が少なくありません。また、衛生管理が不十分な食事により感染症に罹ることもあります。健康体を維持するために、自己管理を徹底してください。

■ 健康面

- 早寝早起きなど規則正しい生活を心がけ、食事はバランスよくとりましょう。
- 「生もの」は、出来るだけ避け、十分に加熱されたものを食べましょう。
- 生野菜やフルーツは、衛生面に不安を感じた場合、食べるのを控えましょう。
- 生水・水道水は飲まないようにしてください。
- 飲料水は安全な市販のミネラルウォーターを利用してください。
- 料理用に使用する水道水であっても、必ず煮沸してから使用してください。
- マラリアやデング熱など、虫を媒体とする感染症予防のため、防虫スプレーを準備しましょう。
蚊対策として、長袖の上着や長ズボンの着用をお勧めします。
- 狂犬病の危険がある国や地域では、不用意に犬に近づかないようにしてください。
- HIVウイルス(エイズ) 感染を避けるためにむやみに性行為は行わないでください。

■精神面

- カルチャーショックやストレス、不安などは、一人で抱え込まないようにしましょう。
- 異文化と遭遇した時には、誰でも体験する普通のことであることと理解しましょう。
- 電子メールなどで日本の家族や友人と連絡を取り、気分転換を図りましょう。

（５）犯罪者となるリスクとその予防

- 交通ルールは、国によって異なるため、事前に現地の交通事情等を調べておきましょう。
- 渡航先によっては宗教に関する規定を含んだ法律のある国も多く存在します。宗教的な習慣を侮辱したり、宗教儀式を妨害する行為は、厳しく罰せられることになるので注意しましょう。
- 紙幣を意図的に破損することが犯罪となることもありますので注意して下さい。
- 軍事施設や、港湾、空港など保安上重要な公共施設は写真撮影が制限される場合があります。
また、宗教施設、博物館・美術館では撮影が許可制になっていることが多いため、注意が必要です。法律上制限がないとしても、人物にカメラを向ける場合は、相手に事前の承諾を得ることがエチケットです。

○過度の飲酒や不適切な飲酒が、被害者または加害者になるリスクを高めることになります。また、飲酒そのものが法的に禁止されている国もあるので注意してください。

○喫煙年齢は、国によって異なります。また、喫煙のできる場所や範囲が限定されるようになってきているので注意してください。

○麻薬・覚せい剤等にはいかなる場合でも近づかないでください。所持、譲渡、売買、製造、輸出入などすべて厳禁です。また、土産を手渡されたり、手荷物を託されたりする形で麻薬を所持させられ、麻薬の運搬に加担させられてしまうことがありますので、他人の荷物を安易に預かることは絶対にしないでください。

（６）現地医療機関の受診・入院について

渡航先で体調を崩した場合を想定して、医療機関の所在地を調べておきましょう。その際、日本語が通じるかどうかも含めて調べておくといでしょう。医療機関での受診、入院に際しては、必ず海外保険被保険者証（海外旅行保険に加入し、発行された保険証券）を携帯し、保険会社に連絡をしてください。渡航前、渡航後は従来の保険証が必要になります。

持病や服薬している場合は、医師にその旨を伝えてください。持病の治療には、海外保険が適用されませんので、全額自己負担となります。現金やクレジットカードを用意してください。

4. 渡航先からの連絡について

渡航先に到着後は、常に自分の所在を明らかにし、いつでも何かあったときに、連絡がつく状態を作っておくことが大切です。なお、緊急の連絡体制については、事前に大学に確認をしてください。

5. 危機事象発生時の対応

安全管理においては、危機を回避すると同時に、危機状況に直面した時にどう対応したらいいのか日頃から準備をしておくことが必要です。万が一、事件・事故に巻き込まれた場合の対応の基本は、まず、身の安全を確保すること、次に関係各所への連絡と情報収集、相談を行うことです。報告、連絡、相談の相手と具体的な行動は次に挙げるとおりです。

- ・留学・研修先機関に連絡する
- ・管轄の日本大使館や領事館に連絡し、指示を仰ぐ
- ・外務省海外安全ホームページで危険情報等を確認する
- ・警察や病院などに助けを求める
- ・福井工業大学、家族、保護者に連絡する
- ・保険会社に連絡し、事態を報告するとともに情報収集を行う

事件・事故ケース別の対応方法は以下を参照してください。

（１）強盗・窃盗等に遭ったとき

犯罪に巻き込まれた場合は、生命の安全を第一に考え、犯人を刺激しないことが大切です。また犯人の要求にできるだけ応じ、現金などは抵抗せず渡してしまうことが必要です。パスポート、クレジットカードなどの盗難被害に遭ったときには、速やかに警察に届け出て、現地の警察による被害届の受理書（ポリスレポート）を受け取ってください。後日、パスポートの再発給申請や海外旅行傷害保険の保険金請求の際に必要となります。一方、捜査は、警察に任せましょう。状況がはっきりしない段階で、自分で直接、疑わしい人を問いつめたり、周囲の人に言いふらすことは、恨みを買ひ、後に危害を加えられる可能性があるため、やめてください。

クレジットカードが盗難、あるいは紛失した場合は、不正使用される恐れがあるため、出来るだけ早くクレジットカード会社に連絡し、無効手続きを行って下さい。このためにもクレジットカードの番号、有効期限、緊急時の連絡先を覚えておきましょう。路上強盗や睡眠薬強盗に遭遇した場合、その直後は、気持ちが張り詰めているために自覚症状が軽微であったものが、後に後遺症として現れる可能性がありますので、念のため病院で診察を受け診断書を貰っておきましょう。

（２）病気・ケガをしたとき

留学・研修先で体調不良の状態が長く続くとき、高熱や下痢、嘔吐の状態がひどいとき、ケガをしたときは、医療機関を利用しましょう。海外での病気、特に感染症には日本ではほとんど例がないものが多いので、素人判断は危険です。海外旅行保険会社のアシスタンスセンターに電話をすると、診療費を直接保険会社から請求することで、本人の立て替え払いが不要になる現地の医療機関を紹介してもらえます。留学先機関に附属する保健センターやクリニックを利用できる場合があります。また、場所によっては、日本語の通じる病院や、外国人対応に慣れた医療機関もありますので、留学先の担当者にあらかじめ聞いておきましょう。

（３）交通事故に遭ったとき

交通事故等に遭遇し、自分あるいは相手が重傷を負った場合には、まずは、周りの人に警察や救急車の手配を依頼しましょう。併せて、家族、福井工業大学、留学先大学や研修先機関、保険会社にも事故の発生を連絡してください。保険会社に損害の請求を行う場合には、警察が発行する事故調書が必要となります。そのためにも警察に必ず連絡して立ち会ってもらうことが必要となります。交通事故の責任が自分の側に大きいと感じる場合であっても、不用意に自分の非を認めることは、最終的に、全責任を負うことに繋がりがねず注意する必要があります。外国では、「アイアムソーリー」は、自分の非を認める言葉ですので、これを多用することは、控えてください。

（４）逮捕・誤認逮捕されたとき

現地で警察に連行・逮捕されてしまった場合は、その理由について説明を求める一方で、被疑者としての自分の基本的な権利を確認し、弁護人や通訳人の配置を求めることが大切です。相手の言うことが良く理解できないままに、容疑を認めるような発言をした場合には、自分を必要以上に不利な立場に置くことにつながることを認識してください。同時に、大使館や領事館と連絡を取り、領事等との面会や家族への連絡支援を受けることも重要です。いずれにしても滞在する国の法律を守り、不法な行為には関与しないよう自分の行動を厳しく律することが最も重要です。

（５）戦争・内乱・暴動・テロ等が発生したとき

テロ事件や暴動が起きると、現場は、かなり混乱した状態になることが予想されます。このような事態に遭遇した場合は、決してパニックにならず、群衆には近づかないようにし、いち早く安全な場所に避難することが大切です。ジャーナリストなど特別な訓練を受けた者以外が、近くで騒乱の様子を探ることは、極めて危険な行為ですので絶対にやめてください。ましてや好奇心で騒乱の場に出掛けるような行動は決してとってはいけません。また、このような事件が発生した場合には管轄の在外公館（日本大使館・領事館等）と緊密な連絡を取り、身の処し方について助言を受けることが必要です。併せて、福井工業大学に速やかに連絡し、大学側の指示に従って、早め早めの避難行動を起こすことが必要です。

最後に

このガイドブックでは、トラブルの事象を挙げて説明しましたが、実際に海外のさまざまな国・地域を訪れ、海外生活に触れると、ここに記載された以外のトラブルにも遭遇する可能性は十分にあります。そのようなときでも、「自分の身は自分で守る」という基本を忘れずに行動することが大切です。困ったときに最も頼りになるのは「自分自身」ということを常に思い返し、海外渡航を実施してください。

緊急連絡先リスト

家族①：	
家族②：	
現地友人①	
現地友人②	
引率教員・同伴責任者：	
現地大学教職員①	
現地大学教職員②	
ホストファミリー①	
ホストファミリー②	
福井工業大学 学務課 平日 8：30～17：30	Tel： Fax： Email：
福井工業大学 インターナショナルセンター 平日 8：30～17：30	Tel：0776-29-2786 Fax：0776-29-2796 Email：international@fukui-ut.ac.jp
福井工業大学 防災センター 平日8:30～17:30以外、土曜、日曜、祝日	
福井工業大学 就職支援課 平日 8：30～17：30	Tel： Fax： Email：
保険会社	担当者 連絡先
旅行会社	担当者 連絡先
クレジットカード会社	連絡先
大使館	連絡先